３　災害時でも子どもたちが
主体的に行動できる力を育成する事業
（ネイパル防災Ａ・Ｐ）

家庭や地域とともに学ぶ体験的な防災教育の推進

ネイパル砂川　冬ひな　～冬こそ防災、避難所体験～

1　事業のねらい

避難所での生活を想定した体験や学習を通して、災害への対応力や防災意識、災害後の生活や復旧時に自ら行動しようとする意識を高めて災害に備える。

2　事業の概要

■期日　R５.２.11(土)～12 日(日)　一泊二日
■対象　小学３年生～中学生とその保護者
■人数　１０名
　　（小学生３名　保護者等７名）
■場所　北海道立青少年体験活動支援施設ネイパル砂川

3　プログラム

	14:00	14:30	15:00		17:00	17:30	19:00	22:00
11日(土)		受付	出会いの集い	活動１　防災ミニ知識 避難所生活についてや準備しておくと便利なものについて学習	休憩・移動・準備	活動２　備蓄食体験 カセットコンロでお湯を沸かして備蓄食体験	活動３　避難所体験 居住スペース作成 入浴・自由 入浴時間 19:30～21:30	就寝 体育館で避難所体験をしよう※

	6:30	7:30	9:00	11:00	12:00	12:30
12日(日)	起床・清掃	朝食	活動４　雪中での救助体験 雪中事故の危険回避の方法や救助方法について学習	活動５　防災について考える	別れの集い	解散：12：30（予定） 解散場所：ネイパル砂川

4　ねらいを達成するための活動の工夫

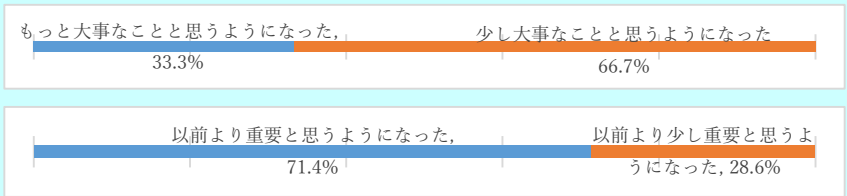
■日常の災害への備えの意識向上を図る。
砂川市の防災対策係から講師を招き、災害への備えや防災グッズの使い方を学び、備蓄食体験では様々な種類を試食することで、災害への備えをするうえでの参考になるようにした。
■地域ならではの災害への対策。
雪崩事故防止研究会から講師を招き、雪の多い地域ならではの防災について体験を交えながら学習できるようにした。

段ボールベッドの組立

プロービング体験

5　事業の評価

自宅での防災への取組についての考えの変化



■子ども、保護者共に防災意識が高まったと回答があった。親子で防災について学び考える２日間にできたと考える。

6　ねらいを踏まえた成果と課題

●砂川市防災対策係、雪崩事故防止研究会から講師を招くことにより、専門的で体験を交えた学びとなり、災害への対応や回避方法を学ぶことができた。
○事業の教育的効果を広めるためには参加者を集めなくてはならない。参加対象を低学年は保護者同伴、高学年は子どものみでの参加を認めるなど募集のあり方を再考する必要がある。

企画のポイント

冬季の避難所体験や雪中での救助体験など、地域の実態に応じた内容の精査。

ネイパル森

災害発生時、主体的に行動できる力を育む

防災キャンプ

1　事業のねらい

自然災害を深く知るとともに、日頃からの備えや災害発生時の対応を体験的に学び、身に付け、行動に結びつける意欲を高める。

2　事業の概要

■期日　R4.9.24（土）～25（日）　1泊2日
■対象　小学生5年生～中学生3年生
■人数　38名　ボランティア4名
■場所　ネイパル森、駒ケ岳

3　プログラム

	13:00	13:15	14:30	16:00	18:00	20:00	22:00
9/24（土）	受付	開会式	活動1【ネイパル森】「災害について知ろう」	活動2【ネイパル森】「避難時に何を持っていく？」	活動3【ネイパル森】「避難所プログラミング」（避難所設営、段ボールベット設営等）	活動4【ネイパル森】「防災クッキング」	入浴	就寝（体育館・研修室）

	7:30	9:00	12:00	13:00	14:00
9/25（日）	起床	朝食	活動5【ネイパル森・駒ケ岳】「活火山の駒ヶ岳について知ろう」（火山災害の学習、駒ケ岳登山）	昼食	まとめ	閉会式	解散

4　ねらいを達成するための活動の工夫

■興味関心を高める工夫
・避難時に持ち出す物を決める学習ではゲーム形式で進めたり、講師の説明時には実験や映像を組み込んだりした。
・非常用トイレや段ボールベットを組み立てて、実物を確認したり、火山の現地調査を行ったりした。

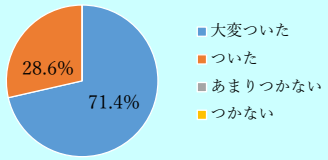
■主体的に行動できる人材の育成のための工夫
・防災危機管理官を招へいし、災害に対する深い学びを得て、防災・減災への意識を高めた。その上で時間内に避難時に持ち出す物を整理する活動や体育館に実際に寝床を作る活動など実践的な内容を取り入れ、学びと体験的な活動を掛け合わせた内容にした。

参加者が話し合い設営した避難所

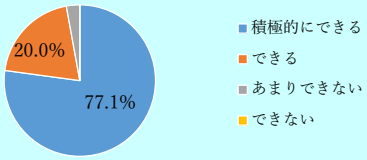
保存が効く食材で作れる料理

5　事業の評価

防災・減災の知識がついた



避難所で積極的に行動できそうか



■参加者アンケートから
・防災・減災の知識が「大変ついた・ついた」と回答した参加者のうち、避難所で他の人のために「積極的に行動できる・できる」と回答した割合が92.6%と高い。

■参加者の声
・災害発生時は自分で判断し行動することが重要だと感じた。

6　ねらいを踏まえた成果と課題

●参加者アンケートのクロス集計から、防災・減災の知識がついた参加者ほど、避難所では積極的に行動できると回答した割合が高いことから、知識を得た上で体験的に学ぶことにより、防災に対する意識や災害時の行動に結びつける意欲が高まったと考える。
○事業のみでは、参加者が主体的に行動できるかは見取れないため、参加者の変容を分析する事後アンケートを実施し、分析を加えプログラム開発につなげる。

企画のポイント

災害や防災ついての学びを深め、体験的に学べるよう、講師を招へいし、実験や現地調査を実施。

家庭教育

ネイパル北見

家庭での育児に生かせる体験と交流の場をつくる

家族ふれあい広場～防災編～

1　事業のねらい

災害を想定した体験活動を通して親子が一緒に活動することにより、家族の絆や家族間の連携を深める。また、保護者が自身の子どもに対する新たな気づきを得たり、保護者間の交流を深めたりする機会を提供する。

2　事業の概要

■期日　R4.10.1(土)～2（日）　1 泊 2 日
■対象　3～5 歳までの幼児とその家族
■人数　6 家族 21 名
■場所　ネイパル北見
■協力　オホーツク振興局地域創生部地域政策課防災係

3　プログラム

1日目 10/1(土)	12:00～12:30 受付	12:30～13:00 開講式	13:00～15:00 Doハグ体験	15:00～16:30 避難所体験 （段ボールベッド組立、段ボール基地作り）	休憩	17:00～19:00 夕食 （ハイゼックスご飯作り）	休憩	19:00～21:00 入浴・自由 交流カフェ	21:00～ 自由・就寝
2日目 10/2(日)	～7:30 起床・準備	7:30～8:30 朝食	8:30～9:30 片付け 部屋点検	休憩	10:00～11:00 防災紙芝居	11:00～ 閉講式	11:30終了		

4　ねらいを達成するための活動の工夫

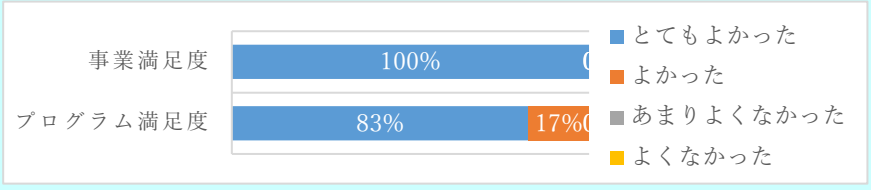
■災害時を想定した家族での避難所体験の設定
避難所生活の疑似体験等を通して、世話が必要な幼児をかかえながらの防災について、日頃から用意すべき物資や心構えなどを考える機会とする。

■保護者の交流による学び
子どもと保護者の活動を分け、保護者による Do ハグ体験では、アイスブレイク的に距離感を縮めることをねらいとした。また夜の交流カフェでは、くつろいだ雰囲気の中でそれぞれの家庭での情報交流や意見交換などが積極的に行われる場を設定した。

ボランティアによる防災紙芝居

交流カフェで家族間交流

5　事業の評価



参加者アンケートから
■「Ｄｏハグ」等のプログラムに対しては、参加者全てが肯定的な評価をしていた。
■防災グッズを見直してみるいい機会になった。
■備蓄品には子どもたちの娯楽品も必要と感じた。また、ローリングストックにお菓子を加えようと思った。

6　ねらいを踏まえた成果と課題

○家族での避難所体験等を通して、防災に対しての気づきや関心を深めることができた。
●「交流カフェ」以外に夕食時などに交流する場面が少なかったため、交流時間の確保や、ふりかえり場面を設定するなど内容等を更に工夫する必要がある。

企画のポイント

避難所体験と保護者同士の交流をつうじた、家庭での防災について振り返る場面の設定。

ネイパル北見

防災リテラシーを「本物体験」から学び、生きる力を育む

リアル防災キャンプ　厚岸・山小屋編

1　事業のねらい

実際にライフラインのないリアルな環境下で、防災リテラシーを学び、防災力を高める

2　事業の概要

■期日 R4.10.8(土)～10(月・祝)　2 泊 3 日
■対象 小学 3 年生～6 年生
■人数 20 名
■場所 ネイパル北見・厚岸・山小屋らんぷのいえ

3　プログラム

日時	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	泊
10/8（土）					受付	開会式	オリエンテーション&装備準備	昼食	バス移動 北見⇒ネイパル厚岸			集い	夕食	入浴	明日の準備	ふりかえり	自由時間	就寝	ネイパル厚岸
10/9（日）	起床	愛冠岬散歩		朝食	清掃	厚岸町ハザードマップラリー & Walk to 山小屋らんぷのいえ（10ｋｍ） （移動途中で、各班ごとに食事の買出し）						防災食de夕食		片付け	ふりかえり	自由時間	就寝	山小屋
10/10（月・祝）	起床	荷物整理	防災食de朝食		掃除	荷物積込	バス移動 山小屋⇒ネイパル北見				ふりかえり	閉会式	解散					

4　ねらいを達成するための活動の工夫

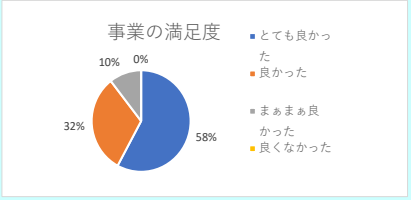
■リアルな防災を体験するために山小屋を利用したプログラム構成
・ライフラインのない中での実生活を体験するために、防災食を考慮した食品購入や帰宅困難者を想定した 10ｋｍ徒歩移動を実施。移動中は、実際のハザーマップにある標識の確認などできるよう工夫し、必然的に防災リテラシーを学べる活動を取り入れた。
■防災 AP で作成したプログラムを活用
・ネイパル厚岸が作成した、厚岸町ハザードマップラリーを活用し、実際に歩きながら、その土地の標識や避難施設の場所などを確認し、町の防災システムを学ぶ。

ハザードマップラリー体験活動

山小屋での食事体験

5　事業の評価

■本当に何かあった時に、大事なことだと思った。
■歩いて家に帰るのはとても大変。
■山小屋生活は、便利なものを持っていてもやっぱり大変でした。
■本当の災害が起きた時、家族を少しでも助けられるよう、色々と覚えたい。
■災害が起きた時に、活躍できるようになりたい。
■急にライフラインがなくなった時に、そこで立ち止まらないで、てきぱきと行動できるよう勉強しようと感じた。



6　ねらいを踏まえた成果と課題

●リアルな体験の中、様々な場面で考えることが多数あったことが、振り返りからも読み取れ、より防災に対する意識が高まった。実体験を通して、意識が高まることがわかった。
○ハザードマップ使用した活動を行う場合、見て歩くだけではなく、海抜や施設の確認など、防災を意識できる工夫をもっと取り入れることが必要。

企画のポイント

ライフラインのないリアルな生活や、帰宅困難時を想定した 10 ㎞徒歩移動を実際に体験し、防災リテラシーを学ぶ！

ネイパル北見

グローバルに防災を学ぼう

グローバル Kids キャンプ

1　事業のねらい

楽しみながら、英語に触れる体験を通して、異文化への理解や英語に対する学習意欲の向上を図り、グローバル社会に対応する人材の育成を図る。

2　事業の概要

■期日　R4.10.22(土)～23（日）1 泊 2 日
■対象　小学校 3 年生～小学校 6 年生
■人数　19 名
■場所　ネイパル北見
■協力　オホーツク管内 ALT（北見市、美幌町）

3　プログラム

日程	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
1 日目 10/22(土)								受付 13:00～13:30	開会式	アイスブレイク	グループ防災	ぼうさい Duck in English	Bousai English なんていうの	部屋準備	夕食	Bousai English どうするの	入浴 就寝準備	就寝
2 日目 10/23(日)	起床・洗面		朝食	部屋清掃	グループ避難訓練				ふりかえり	閉会式	解散 12:00						

4　ねらいを達成するための活動の工夫

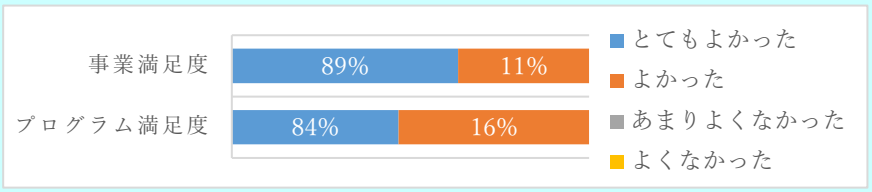
■海外の災害について学ぶプログラム
・ALT の出身国である、カナダ、アメリカ、ニュージーランドで発生した災害や防災の取組について説明を受け、日本との違いや地域により様々な災害が発生することを学ぶとともに、災害や防災について考える機会とする。

■実際に英語による避難訓練の実施
・防災の初期行動をカードで学ぶ「ぼうさいダック」を英語で実施し、災害や初期行動の英語表現を学んだ。その後、学んだ英語を使った予告なしの避難訓練を活動中に実施した。

ALT による各国の災害の説明

ぼうさいダックを英語で実施

5　事業の評価



■参加者アンケートから
・津波や台風は、英語で言う時も同じ言葉でびっくりした。
・英語が話せると、いろいろな国の人と話せるということに気づいた。他の国の人とも話してみたい。

6　ねらいを踏まえた成果と課題

○地球規模で災害は発生することを知るとともに、英語の必要性や防災の重要性について気づき、興味・関心を高めることができた。
●災害時の英語を学ぶことはできたが、コミュニケーションを取る場面が少なかった。実際の災害時を想定し、話す場面の設定など工夫する必要がある。

企画のポイント

グローバルに災害を知り、英語や防災の必要性を知るプログラム設定。

ネイパル北見

災害時に主体的に行動できる力と積極的に貢献する態度の育成

防災 AP presents 防災体験デー

1　事業のねらい

ネイパルでの体験活動を通じて、災害時に主体的で安全に行動できる力を育み、地域や避難所で積極的に貢献する態度を育成する。

2　事業の概要

■期日　R4.9.17(土)　日帰り
■対象　小学３～６年生、中・高校生
■人数　16 名
■場所　ネイパル北見

3　プログラム

	9:30	10:00		12:00	13:00	15:30	16:00
9/17（土）	受付	開会式	ハザードマップラリー	防災食でお昼ご飯	水辺の災害救助体験	閉会式	解散

4　ねらいを達成するための活動の工夫

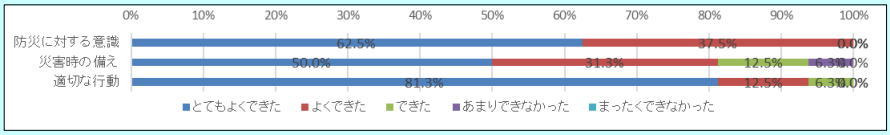
■地域特有の災害に対応できる体験プログラム
・オホーツク地域は水害が多いと言われるため、川の増水時や海辺での活動時の水難事故に対応できるよう、事故に遭遇した際の連絡方法や身の回りのものやロープワークを組み合わせて救助する方法など学ぶ場を設定し、主体的に学ぶ意欲につなげられるようプログラムを工夫した。

■実際のハザードマップを活用した体験プログラム
・ネイパル北見が立地する栄浦地区の津波用ハザードマップを活用し、ゲーム感覚で地図の見方や災害時の避難経路を考える力を養うプログラムを開発、実施した。

ハザードマップラリーを体験

水難事故への対応を学ぶ

5　事業の評価



■参加者アンケートから、
「防災に対する意識」に関する項目で、肯定的な評価が 100%であった一方、「災害時の備え」に関する項目では 80%程度に留まった。
■防災グッズを家に用意したり、自分のまちのハザードマップを確認したりしようと思った。

6　ねらいを踏まえた成果と課題

●アンケートで「おぼれている人を発見した時はまず人を呼ぶことが大切だとわかった」という声があったことから、水難事故への対応について学ぶ場面の確保が、安全に行動するための知識の獲得につながった。
○災害時の備えに関する評価が高くなかったことから、災害に備え日常から何をしておくべきか考えたり話しあったりする場面を意図的に設定する必要がある。

企画のポイント

実際の災害や事故を想定し、災害時に主体的、積極的に行動する力を育む場面の設定。

ネイパル厚岸

体験活動の提供を通して、施設の利用を促進

防災キャンプ 2022

1　事業のねらい

災害が発生し通常の行動等が困難な場合において、命をつなぐために主体的・安全に行動できる力を身に付ける。

2　事業の概要

■期日　R４．９.17(土)～９.18(日)　１泊２日
■対象　小学３年生～中学３年生
■場所　ネイパル厚岸、厚岸町生活改善センター
■協力　境　智洋　氏（北海道教育大学釧路校教授）、大学生
　　厚岸町役場危機対策室危機対策課

3　プログラム

	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
１日目				受付	開会式	津波災害について ※津波実験	昼食	厚岸町 ハザードマップラリー		就寝準備	夕食 ～防災食紹介～		様々な災害について	入浴 交流		就寝
２日目	起床	朝食	後片付け	防災小説づくり		ふりかえり	閉会式									

4　ねらいを達成するための活動の工夫

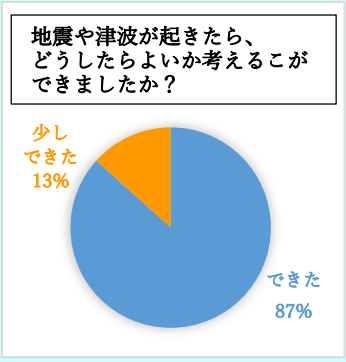
■地域の特性や想定される災害に応じたプログラム
・釧根地域は津波災害のリスクが高いことから、津波に関する基礎的な知識を学ぶとともに、津波発生から避難、避難所生活を時系列に沿ったプログラムにし、参加者自身が、災害発生時の具体的な避難行動を想像できるようにした。

■日頃からの減災・防災への意識付け
・大災害を「もしも」ではなく「いつか」として捉え、各活動で日頃の備えや心構えについて触れ、災害に対して「今できること」「大切なことは何か」を参加者が考えられるよう工夫した。

厚岸町ハザードマップラリー

実験を通して津波について学ぶ

5　事業の評価



■事後アンケート調査
・参加者全員が、発災時の対応について考えることができたと回答した。
■参加者の声
・東日本大震災のことを忘れず、千島海溝沿いの巨大地震に備えたい。
・地震が起きた時に、どう津波がきてどう行動すればいいのかが分かった。
・活動１つ１つに防災の勉強が入っていてとても勉強になった。地震や津波が来たら、今回学んだ事を生かしたい。

6　ねらいを踏まえた成果と課題

●「防災小説」で参加者全員が、自身の居住地で災害発生時の状況や心情、避難行動を想像して小説を書けたことから、災害を自分事として捉えることができたと考える。

○防災対応において中高生が地域で担う役割は大きい。中高生向けの防災事業など、様々な対象に応じた防災教育を進めていく必要がある。

企画のポイント

地域で想定される災害リスクを体験的に学び、日頃の防災活動につなげ、防災力向上を図る。